

第2回 石狩川開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

石狩川開発建設部で現在実施中の夕張シューパロダム建設事業及び幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「石狩川開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

記

- 開催日時 平成21年6月23日 9:30～12:00
- 開催場所 石狩川開発建設部内会議室
- 議 題

1. 夕張シューパロダム建設事業

- 1) 事業の実施状況
付替道工事の継続中止に向けた状況等について
- 2) コスト縮減の取り組み
 - ①基礎処理
改良範囲・改良目標の見直し
 - ②管理設備・立木伐採契約方法の見直し
- 3) 平成22年度 事業実施方針



2. 幾春別川総合開発事業

- 1) 事業の実施状況
- 2) コスト縮減の取り組み
 - ①堤体設計・施工・材料などの見直し
- 3) 平成22年度 事業実施方針

◆「石狩川開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿◆

◎委員長（敬称略、五十音順）

| 名 前 | 役 職 等 |
|----------------------|--|
| ◎ 泉 典 洋 いずみ のりひろ | 北海道大学大学院 工学研究科 教授 |
| 向 田 直 範 むかいだ なおのり | 北海学園大学法学部 政治学科 教授 |
| 山 下 弘 市 やました ひろいち | 元北海道土木技術会 コンクリート研究委員会委員 |
| 吉 井 厚 志 よしい あつし | 独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長 |

◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

(1) 夕張スーパーダム建設事業

(質問) 付替道道工事を中止とした場合の工事費の増減はどうか。

(回答) 付替道道工事は現計画額より約100億円以上の増額が見込まれることが判明した。このため、道路管理者の北海道と中止を含めた調整をしており、仮にこの場合は工事費は大幅な減額となる。

(質問) 付替道道工事の継続が困難となった理由および概成部分の取扱いはどうか。

(回答) 付替道道を予定していた箇所については、路線全体に斜面对策工が必要で、これらは技術的・経済的に工事を継続することが困難な状況。

概成部分については、流木処理等管理用道路として必要不可欠である。

(付替道道工事の継続中止方針について委員から異議は無し。)

(質問) 付替国道の撤去とは現道を撤去ということか。

(回答) ダム完成に伴い水没する現国道の橋梁・舗装・ガードレール等を撤去するものである。しかし、ダム管理において斜面監視・流木処理等に必要となる管理用道路として、現国道の利用も考えており、これに必要な部分は残すことで検討している。

(質問) ダム完成後に水没する三弦橋などの旧森林鉄道橋などの橋梁の扱いはどうか、また、廃棄物処理法との関係はいかに。

(回答) 廃棄物処理法においては、利用目的の無いものは撤去し処分しなければならないが、三弦橋を含む旧森林鉄道橋は、歴史的・構造的にも貴重なものであり、地元からもその保存が望まれている。地元とも良く調整し、対応していきたい。なお、存置した場合にはコスト面でも有効であると考えている。

(質問) 低品質骨材の有効利用による工事費の見通しはどうか。

(回答) 低品質骨材の有効利用により、工事費を抑制出来た部分がある。

(質問) コスト縮減の取り組みで実施している立木売り払いは、民間の業者に一般競争入札方式で売り払いを行うのか。

(回答) 昨年度すでに試行的に実施したが、その時は一般競争入札方式である。

(意見) コスト縮減策として立木売り払いを進めてほしい。

(2) 幾春別川総合開発事業

(意見) 紅葉時期の桂沢ダム周辺は写真撮影の名所となっている。今後も、これを残して活かしていくことが重要と思われる。

(意見) ダムや関連工事による裸地の植生回復については、従来より行われている芝による回復だけでなく、ダム完成後の当面の法面浸食を抑制することにより周辺植物からの種子による緑化回復を行うことで、コスト縮減を図ると同時に周辺の景観に合った緑化回復が可能になると考えられる。今後も検討を進めていきたい。

(以上)